

2011年度 紙パック回収率



2011年度の紙パック回収率は
42.9%でした。

紙パックリサイクルに関する情報収集と社会への提供のために、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」が、2012年も6月～10月に実施され、2011年度のリサイクル状況が明らかになりました。

2011年度は猛暑や震災の影響により、紙パック出荷量は増加したものの回収量が伸びず、紙パック全体の回収率は42.9%（前年度比で0.7ポイント減）でした。

回収量減少の要因のひとつは東日本大震災で、紙パックの生産とともに発生する損紙のリサイクルの減少、被災地周辺での紙パック回収の停滞などがありました。

※2011年度の調査では、紙パックメーカー9社・飲料メーカー313社・1,728市町村区・小学校2,130校・スーパーマーケット等983社・市民団体および福祉作業所6カ所・再生紙メーカー33社等をアンケート調査対象に、また4カ所をヒアリング調査対象としました。なお、震災により、従来通りの基本調査が一部の地域でできませんでした。
※紙パック製造工程や飲料工場の飲料充填前に発生した不良原紙、端材などの使用されない紙パックを損紙、または産業損紙と呼んでいます。
※店舗、事業所、学校、家庭などで発生した紙パックを古紙と呼んでいます。

自治体の紙パック取引価格は
2年連続で上昇しました。

紙パック古紙は、紙の繊維が長く強いことなどから、良質の再生紙原料に位置付けられており、比較的高価で取引されています。

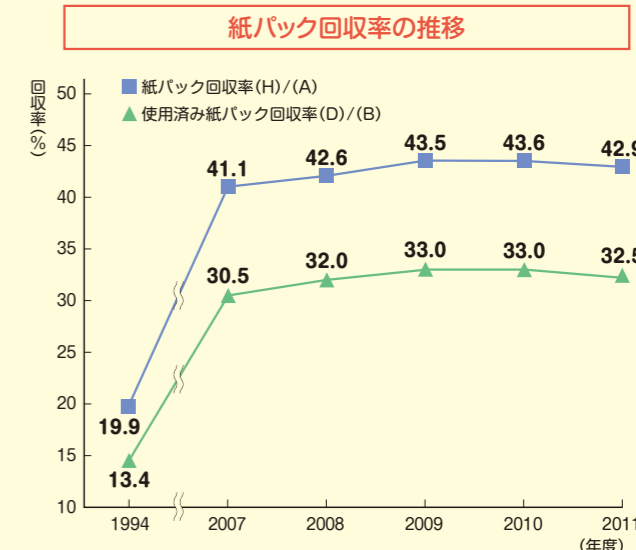
ただ、市町村の紙パックの取引価格は、市町村ごとに決め方がさまざまなので、標準的な価格を出すのは困難です。ここでは、紙パック単独の価格で、取引価格以外の付加条件がつかない市町村を対象に、相手先に来てもらう引渡価格と、相手先へ持ち込んだときの持込価格に分けて集計しました。また、集団回収も同様に集計しました。

2011年度の平均取引価格は、前年度に引き続きおむね上昇傾向を見せました。そのうち市町村回収の主な取引先である古紙回収業者と古紙直納問屋については、古紙回収業者の引渡価格を除いていずれも上昇しました。

2011年度の紙パック回収量は
105.7千トンでした。

右の図のように、紙パックの回収率は調査開始以来、初めて低下しました。回収量や回収率の詳細は下の表です。

2011年度の国内紙パック回収量は105.7千トンで前年度より1.9千トン(1.8%)減少しました。使用済紙パック回収量は0.7千トン(1.0%)減少しましたが、集団回収は0.4千トン(4.2%)の増加がありました。なお、回収量の105.7千トンはトイレットペーパーに換算すると約6億口ローになります。



主要データの推移(千トン)

区分	1994年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	対前年増加率
飲料用紙パック使用量(A)	216.0	255.9	251.0	244.3	246.8	246.6	0.0%
紙パックメーカー産業損紙発生量	16.5	36.6	37.1	35.9	37.3	35.1	-6.0%
飲料メーカー産業損紙発生量	-	3.6	3.0	2.6	2.1	3.3	56.4%
飲料メーカー飲料用紙パック出荷量(B)	197.9	215.7	210.9	205.8	207.3	208.3	0.5%
家庭系(C)	168.7	194.1	189.3	184.3	184.6	184.8	0.1%
自販機等(事業系)	18.5	9.9	9.8	9.7	10.8	11.7	8.1%
学乳(事業系)	10.7	11.7	11.8	11.8	11.8	11.8	-0.1%
使用済紙パック回収量(D)=(E)+(F)	26.5	65.8	67.4	68.0	68.4	67.7	-1.0%
家庭系回収量(E)	25.9	55.6	56.7	57.3	56.6	56.2	-0.7%
店頭回収量	13.8	31.8	33.4	34.5	33.6	33.0	-1.8%
市町村回収量	4.3	14.4	14.4	13.9	14.1	13.9	-1.4%
集団回収量	7.8	9.4	8.9	8.9	8.9	9.3	4.2%
事業系回収量(F)	0.6	10.2	10.7	10.7	11.8	11.5	-2.4%
学乳紙パック回収量	0.6	8.8	9.3	9.3	9.4	9.2	-2.3%
自販機・飲食店等	-	1.3	1.4	1.4	2.3	2.3	-2.8%
産業損紙・古紙紙パック回収量(G)	16.5	39.4	39.7	38.2	39.3	38.1	-3.0%
紙パックメーカー回収量	16.5	36.6	37.1	35.9	37.3	35.1	-6.0%
飲料メーカー回収量	-	2.9	2.6	2.3	1.9	3.0	55.0%
国内紙パック回収量(H)=(D)+(G)	43.0	105.2	107.1	106.2	107.6	105.7	-1.8%
紙パック古紙輸入量	-	12.3	13.9	10.9	12.7	14.0	10.2%
紙パック総受入量	43.0	117.5	120.9	117.1	120.3	119.7	-0.5%
紙パック再資源化量	30.1	89.2	93.8	93.2	96.3	95.7	-0.7%
紙パック回収率(H)/(A)	19.9%	41.1%	42.6%	43.5%	43.6%	42.9%	-0.7ポイント
使用済紙パック回収率(D)/(B)	13.4%	30.5%	32.0%	33.0%	33.0%	32.5%	-0.5ポイント
家庭系使用済紙パック回収率(E)/(C)	15.4%	28.7%	30.0%	31.1%	30.6%	30.4%	-0.2ポイント

※紙パック再資源化量=紙パック総受入量×歩留率。歩留率は、2001年度以降についてはアンケート調査により求めています。
※1994年度の産業損紙発生量にはアルミつき紙パックを含みます。
※2004年度より事業系紙パック回収量をアンケート調査に基づいて求めています。
※2005年度に学乳紙パックの重量の見直しを行い、他の項目の値も一部影響を受けています。
※100トン未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。また、同じ理由により表中の数値から回収率や前年度比を計算すると合わない箇所があります。

2011年度の紙パック回収率

紙パック回収率
(産業損紙・古紙を含む)

42.9%

(2010年度 43.6%)

=国内紙パック回収量÷紙パック原紙使用量
=105.7千t / 246.6千t

使用済紙パック回収率
(使用された紙パック)

32.5%

(2010年度 33.0%)

=使用済紙パック回収量÷飲料メーカー紙パック出荷量
=67.7千t / 208.3千t

紙パック古紙の平均取引価格

年度		2008	2009	2010	2011	
市町村回収	古紙回収業者	引渡価格	8.5	6.2	7.5	7.1
		持込価格	7.8	5.4	6.9	7.5
	古紙直納問屋	引渡価格	9.3	7.0	8.9	9.4
		持込価格	9.4	7.0	8.0	8.7
製紙メーカー	引渡価格	11.9	8.8	12.3	10.8	
		持込価格	9.7	8.0	10.2	10.3
	(取引先不問)	引渡価格	5.6	4.3	5.2	5.2
		持込価格	5.8	6.9	5.1	5.9

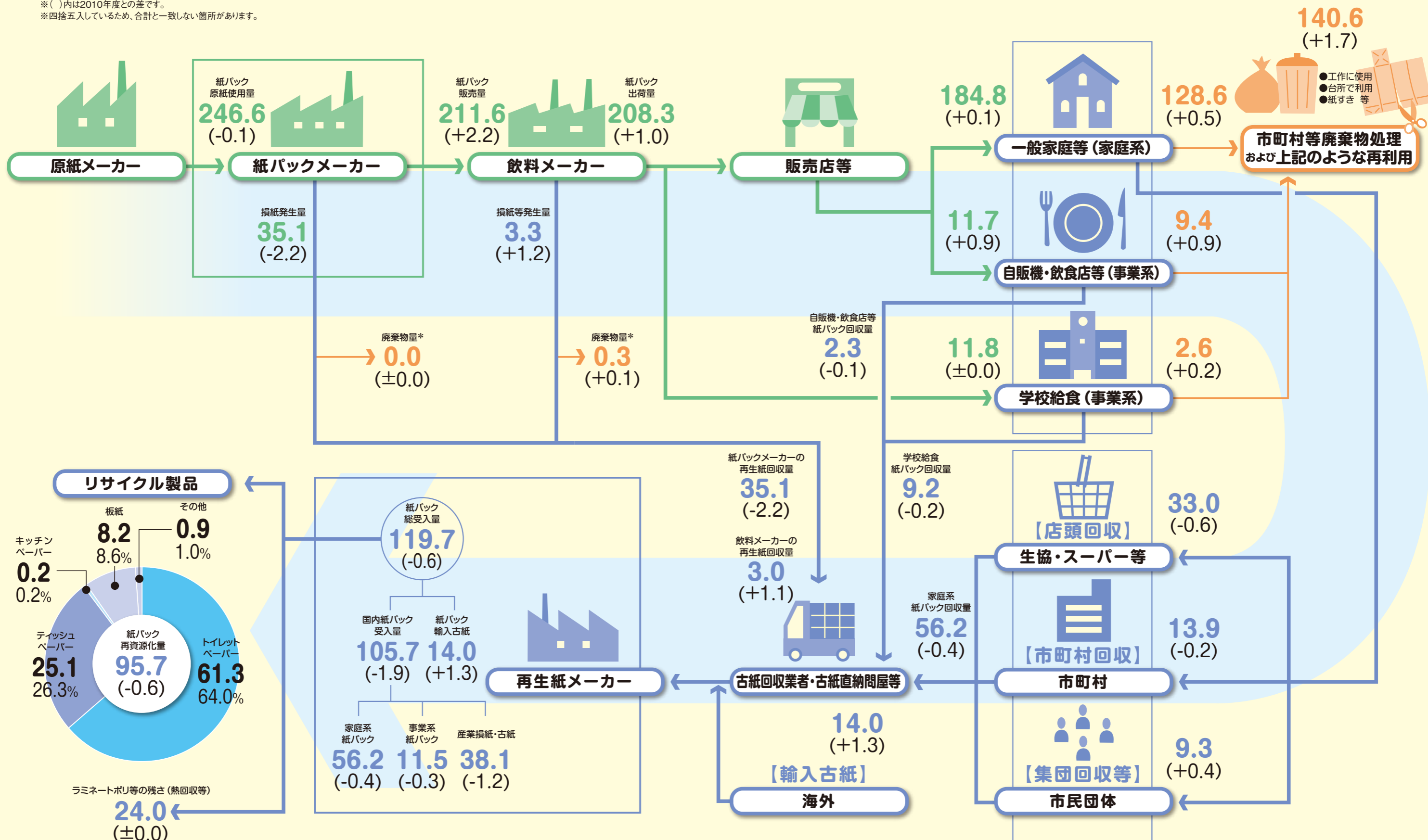
(円/kg)

2011年度 紙パックマテリアルフロー



2011年度の紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

※単位：千トン
 ※()内は2010年度との差です。
 ※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。



* 廃棄物量には熱回収されるものも含む。